

認知症の本人を行政・多職種・住民が 一体的に支える体制を築いていくための 市町村としての役割と実際

～行政と地域包括支援センターの協働から
多職種・住民との地域づくりへ～

岸和田市福祉政策課
庄司彰義

岸和田市

- 人口201,170人(H25年10月)
- 高齢化率 23.7%
- 認知症日常生活自立度Ⅱ以上 5,611人
- 地域包括支援センター—委託型6箇所



これまでの経緯

2000
(H12)

2009
(H21)

2010
(H22)

2011
(H23)

2012
(H25)

2013
(H25)

2014
(H26)

認知症地域資源
ネットワーク構築
事業(モデル事業)
(実質数か月)

★きっかけづくり

★継続していく
ためのしかけ
づくり

★たくさんの
住民の声を拾う

モデル2年目もと
思っていたが・・・。
市独自に展開。

継続と拡大！

*しくみ・体制づくり
*行政計画への位置づけ

仲間づくり⇒企画・実施・推進

- ・ネットワーク会議
- ・ワーキング部会
- ・医療と介護の連携会議
- ・多職種連携研修会

等々

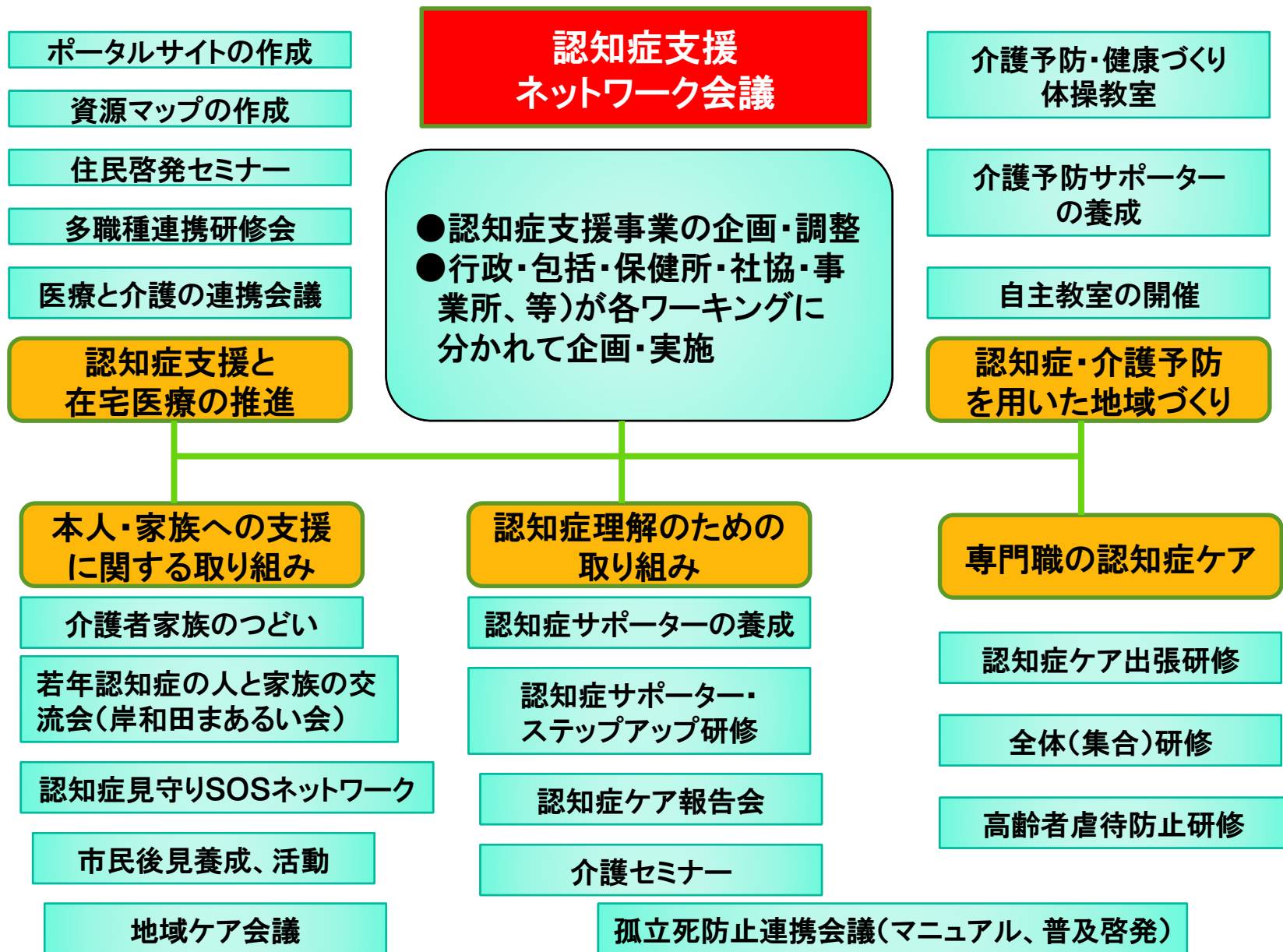
⇒包括：圏域ごとに

☆「とりあえずやってみよう！」から始めて

現在、進行形！

次期計画に
むけて

岸和田市の認知症支援の取組み



オレンジプラン(認知症施策推進5ヵ年計画)

- 認知症ケアパス
- かかりつけ医認知症対応力向上研修、認知症サポート医
- 認知症初期集中支援チーム
- 地域ケア会議
- 認知症地域支援推進員
- 認知症サポーター
- 市民後見人
- 認知症カフェ

自分の市で暮らす一人ひとりに実際役立つために
何を大事に、計画したり、取組んでいったらいいのだろうか。

基本的なこと(大事なこと)

- 地域で暮らす“ひとり”を実際に支えるしくみを
ていねいにつくりだし、積み上げていくことの
重要性
- 個別課題を丁寧に検討して、
個別支援と地域づくりに展開するプロセス



オレンジプランとしっかりつながるか？

例えば、オレンジプランだけだと

- 認知症初期集中支援チーム
⇒ 支援する方はどこに？
- 地域ケア会議
⇒ 支援する方はどこに？
- 市民後見人
⇒ 受任機会がない

在宅医療推進（第6期計画必須）

- 最期まで住み慣れた、自宅や施設で。そのために医療と介護の連携必要。
 - 特に**2025年以降の75歳**が増加。
 - 連携会議の開催、多職種研修、住民啓発、ポータルサイト、資源マップ、基礎データ等。（岸和田市）
 - 初期集中支援チームを単独で作ることも必要かもしれないが・・・
- 別で考えるより、在宅医療介護連携の中で、認知症初期の方の支援を身近な地域でできれば、初期から最期までの医療介護連携となる。

岸和田市における医療と介護の連携

- 平成21～22年度
 - かかりつけ医認知症対応力向上研修
 - 資源マップ作成
- 平成23年度～24年度
 - 連携会議(年3～4回)、全体研修
- 平成25年度 在宅医療推進のための医療と介護の連携(多職種協働)
 - 多職種研修(講義、事例検討)全体、地域別、住民啓発セミナー、在宅医療マップ、連携会議と、各ワーキンググループで推進

認知症支援と在宅医療の推進(25年度)

- ・ 医療と介護の連携会議(医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護、介護事業所、行政等が在宅医療推進について研修会、講演会の企画・立案)
- ・ 多職種連携研修会(医療職・福祉職・行政職・民生委員等が集まり、在宅医療推進のための事例検討等の研修を行う。)
- ・ 住民啓発セミナー(在宅医療推進を広く市民に周知するため、市全体の講演会、地域ごとの講演会を行う。)
- ・ 資源マップの作成(医療機関・介護保険事業所等を市民がニーズに合わせて探しやすいマップを作成。)
- ・ ポータルサイトの作成(資源マップの情報をインターネットで手軽に検索できるようなサイトの作成。)

相談から支援(ワンストップ)を重視。

例えば

- 80代女性が道に迷い、警察で保護される。
名前は言えるが住所分からない ⇒ 警察から市へ
- 市内で住む母、息子は近くで住む、介護認定受けておらず。(認知症の初期?)
- 翌日、訪問 ⇒ 話を聴く
- リストへ
- 地域包括と訪問
- 支援継続

「ひとり」を確実につなげ・支えることを
行政職員が先頭にたって実践する。
⇒ 活きたケアパスづくりにもつながる。

実態把握：当事者にゆき届く支援を生み出すために

- 認知症の人の数、若年の場合は？
- 行方不明になる可能性のある方はどれくらい？
- 毎年、どれくらい警察で保護されているのか？
- 毎年、どれくらい警察に行方不明届けがでているか？
- 各市町村、もしくはそれぞれの担当する地域（例えば中学校区、小学校区）でどれくらいの行方不明になる可能性のある方がいるのか？

警察への届出、保護件数

	平成23年	平成24年	平成25年
行方不明 届出数	33	27	24
保護件数	113	113	114

岸和田警察署調べ

認知症見守り・SOSネットワーク

○行方不明時の対応

1. SOSネットワーク

- ・模擬訓練

2. 早期発見策

- ・GPS機能
- ・ネームプレート

3. 身元不明者の保護

4. 居室確保

6. 遠方に行った場合の対応

- * 警察との連携

○行方不明を未然に防ぐ

何ができるか、
ここが大事

* 地域の見守りの個別強化

- ・見守り対象者の把握
- ・つなぐ

* 本人・家族が安定・安心して暮らせるための検討・会議 ⇒プラン・支援の補強

* 多職種連携

事後対応

例えば、遠方に行って保護された

- 誰が迎えに行くの？
送っていくの？
 - ・家族、
 - ・介護事業所
 - ・行政
 - ・警察

- 自宅に戻れるか？
- 遠方に行くくらいだから繰り返しが怖い。自宅無理ではないか？
- 施設すぐ無理なら、入院しかない？

認知症になっても安心して暮らせる地域
づくりってよく言うけど…。現実の課題は

- 自宅で暮らし続けるためには？
- 自宅に戻ってから多職種、住民で支えていけるかが大事
- 何のための
認知症サポーターか
多職種連携か
真価が問われるところ。

行方不明を未然に防ぐ(何ができるか)

- 注意が必要な人の把握
- 支援体制づくり(様々なサービス)
- 多職種連携
- 地域の見守り
- 地域ケア会議の活用

※地域の見守りは、誰を見守るか明確であればこそ(知っていることで)、より見守りができる。

※地域に知られたくない人もいる。単なる情報提供ではなく、顔を合わせ、信頼関係を築きながら地域の見守りにつなぐことができれば。

「ひとり」の支援体制づくり(岸和田市の場合)

- 例えば、SOSネットワークの事前登録から
日常の相談から(家族、ケアマネ、地域住民、)
警察から相談
- ⇒ 市と地域包括支援センター職員で本人を訪問
⇒ 声(話)を聴く ⇒ シート作成、リスト作成
⇒ 毎月の定例会議で確認し継続(ここが大事！)
- 多職種連携、地域の見守り
- 地域ケア会議で検討
例) 在宅医療介護連携チームで支援
例) 市民後見人が選任され見守り中心の後見活動

行政として大事にしていること

- 「一人ひとり」の相談・支援を、現場任せにしない
- 「一人ひとり」の相談・支援情報を現場でやりっぱなしにしない
 - ⇒ 行政として個別（支援）情報を集約し、リスト（一覧）作って、分析
 - ⇒ 行政職としても当事者を訪問して実感的に課題や必要なことをつかむ。

事後報告や記録、会議のみからでは
掬い取れないでいた課題・必要性、
行政としてやるべきことが具体的に
分かってくる。

リスト作って、訪問して分かってきたこと

リストから

(1例1例の具体情報から)

- 家族だけや、ケアマネだけで抱えている
- 入院、入所になる場合、1～2年が大事
- ケアマネが地域の見守りにつなぐことは少ない
- ケアマネから地域包括へ相談は少ない

訪問して

(本人、家族の声を聴いて)

- 家でゆっくり過ごしたい
- いつも同じところへ行く
- 強く言われて、出て行ってしまう
- 近所の人がよく見てくれる
- 近所づきあいがなくなってきたずっと家にいる。
- デイは嫌。

行政と地域包括支援センター(委託)の関係

- パートナーとして
- パートナーの関係が、施策や事業実施の基盤
- 目標や方向性の共有
- 専門職の地域包括支援センターから学ぶ
- 行政から包括支援センターへの助言等
- 行政と地域包括支援センターの協働を核に認知症地域支援

(例)

- 高齢者虐待防止連携会議
(個別の相談、同行訪問)
- 権利擁護検討会議
(市長申立て、市民後見)
- 認知症支援ネットワーク
- 地域包括(6ヶ所)として
細かな地域づくり、
多職種連携
- 行政として、公的立場、方向性、財政支援

参考

「地域包括支援センターいなば荘北部」の取組み：市とパートナー関係を築きながら一步一步

新条地区（若葉ヶ丘）取組み

- 
- ①見守り訪問活動を通じた、課題の把握
 - ②居宅介護支援事業所との情報交換・交流会の開催
 - ③新条小学校 認知症理解学習
 - ④圏域専門職声かけ体験企画会議
（社会福祉協議会・福祉政策課・CSW・包括）
 - ⑤地域との声かけ体験企画会議
 - ⑥新条小学校への声かけ体験呼びかけ
 - ⑦認知症声かけ体験の開催 

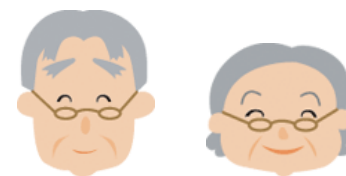
認知症理解への継続活動・地域ケア会議の開催
介護予防体操（自主教室）開催
介護支援専門員と地域との繋がり、地域見守り隊や包括への相談増加
高齢者の居場所づくりを考えていく

①見守り訪問活動を通じた課題の把握



小地域ネットワーク活動、75歳以上の独居高齢者、個別見守り活動
若葉ヶ丘見守り隊(民生委員も一緒に)棟毎のグループで実施

- ・本人不在の際、状況確認をする連絡先が不明
→入院やショートステイ利用中などの情報共有
- ・見守り訪問活動日と介護サービス利用日が重なる
→訪問活動の趣旨を理解してもらい、本人との交流の時間をきちんと持ちたい
- ・緊急カードの登録の呼びかけを全世帯に行っているが、回収できていない世帯もある
→事業所にも協力いただき、登録者を増やしていきたい
- ・介護サービスが入る際の駐車スペースについて
→町としても、協力体制をつくる



あくまで、地域が主体
の情報交換会！

課題を踏まえ、事業所の理解と連携が必須！情報交換会をしては？



②事業所との情報交換・交流会

若葉ヶ丘集会所（地域20名・ケアマネ31名）

- ・若葉ヶ丘町活動報告、日程周知
（社会資源、ボランティア活動一覧、見守り活動）
- ・見守り活動の動画をみてもらう
- ・介護事業所からの事前アンケートに対する回答
- ・活動する中で感じている課題と、事業所と連携・協力したい点を報告
- ・地域包括支援センターの役割と、周知
- ・グループワーク形式にて情報交換会、交流会

成果

● **認知症を知る必要性、居宅介護支援事業所ケアマネも地域行事に参加、ケアマネ側からの駐車場の件を了承、ケアマネと地域関係者との密な連絡体制情報共有シートを検討中、地域の見守り活動が活性化、居場所づくりの必要性**

ケアマネジャーからの感想



○見守り訪問の様子を映像で見せていただき、地域の方が安心して暮らしている様子が伝わり、より連携の必要性を実感できた。

○地域との繋がりは単発ではなく、定期的なものにしていくことで、顔の見える関係づくりを進め、互いの活動がより良いものになると思います。

○ケアマネとしても、地域との連携は必要と感じていましたが、どのようにしたら良いかわからず、民生委員さんや地区福祉委員会の方からも「コンタクトを取り連携したい」と思われていることがよくわかり、安心しました。

○若葉ヶ丘の温かい繋がりを感じ、利用者さんの生活がより暮らしやすいものになるように、地域との連携を深める必要性を実感しました。

○駐車場の件は、町会でも検討してくださっていることが分かり、安心しました。

○対象者の情報共有をする際に、個人情報のことがあるので、協力できるところは協力していきたいと思う。

地区福祉委員・民生委員の感想

○今回の時間だけでは、まだまだ情報共有が足りないと思う。

○今回で終わらず、定期的にこのような場をもっていきたい。

○ケアマネジャーとの関わりを普段から持ちたい。

○「ケアマネジャー」というものが、こういった位置づけで、どのような仕事をしているのか詳しいことが分かっていないので、その部分についてもっと話を聞きたい。

○認知症を地域で支える、仕組みを考えたい。



地域ケア会を通じた検討が必要

ケアマネからすると「要介護者」地域からみると「生活者」
その差異が明らかになったように感じました。

行政としての役割と地域づくりのポイント

岸和田市として重視してきた点

行政としての役割



地域づくりのポイント

- * 施策づくり
継続発展を担保
- * (実施) 計画づくり
目的の具体化
- * 組織・体制づくり
- * 方向性を示す
- * 人を育てる
- * コーディネート役
- * 現場の発案を
後押し
「いいね、やってみよう」
等

- 本人や家族の声を聴くこと
直接の支援や関わりの中で
地域・最前線に出向いて
- 役所の窓口を活かして
- 住民から聴くこと
- アンケートを活かす
- 専門職を通して

★地域にいる人たちと共に
(パートナーとして)

参考：行政が、地域の「本音」をとらえ、
地域人材を活かして、つなぐ、育てる

専門職研修(出張研修)

- 研修会を開催しても参加できない専門職
- 出張研修すれば多くの人が学べる
- 講師役は市内の事業所から募り、講師の養成、研修マニュアル作成
- 認知症介護指導者を中心としたWG
- 講 師 28人（6つの班に分ける）
- 研 修 22年度から26回
- 受講者 約500人（サポーター講座も兼ねる）
- 全大会や定例会
- 23年度 KDC報告会、教材印刷

参考：行政が、育てた人材を地域の様々な活動につなげる・適材適所コーディネートする

講座が終わってから様々な活動へ

- 地域の活動（小地域ネットワーク活動）
- 地域密着型（グループホーム、小規模多機能）でボランティア活動や運営推進会議に参加
- 認知症高齢者見守りＳＯＳネットワークの協力員として
- 様々な研修やフォーラムにお誘い
- 市民後見人として
- 傾聴ボランティアとして
- 若年認知症の人と家族交流会での参加
- 家族のつどい
- 介護者家族の会への参加
- 見守り・ＳＯＳネットワーク：声かけ体験

認知症になっても地域で普通に暮らす

かつて...

- 支援する側、支援される側
- 介護保険サービスを提供する側、受ける側
- 医療サービスを提供する側、受ける側
- 見守りする側、される側

岸和田市で、今（少しずつ）

- 一緒に活動する、作業する
- 一緒に企画する、考える
- 一緒に汗を流す
- 一緒に苦勞する
- 一緒に楽しむ、つくりだす
例えば、スポーツ...
- お互いに役割がある
- お互いが知っている
- なじみの関係

岸和田市の若年認知症の人と家族交流会 「まあるい会」

- 山歩こう会（偶数月の第一土曜日）
一緒に歩くだけ。四季を感じて年中。
本人の声「歩きたい、外に出たい、山に登りたい！」
- 定例会（奇数月の第三土曜日）
- 家族交流の日（毎月最終月曜日）
- ソフトボール練習会



青年認知症の人と関わりたい

平成23年11月19日(土)

10時～ 北阪園 集合

雨天の場合は中止します。

北阪園で、おいも掘り!

秋の味覚、さつまいもを収穫して、
焼きいもを楽しみましょう😊
自然の中でゆっくりと過ごしませんか?



第4回

岸和田まあるい会



北阪園の場所



第5回

第6回

平成24年1月21日(土)

13:30 福祉センター
集合

平成24年3月17日(土)

13:30 福祉センター
集合

カーネーションのまち、
岸和田を歩こう!



参加申し込みにつきましては、必要事項を記入の上、

地域で普通に暮らす

- 会のような特化したものがなくても、普通に地域で生活できればそれが一番かもしれない
 - でも地域の中だと気を使うので、やはり同じ立場（家族会、本人交流の場）だと安心できる人も多い。
 - 選択できるのも地域づくり
- ※ 以前、まあいい会に来ていた方（当事者）は、今は会には来なくなり、地域でボランティアをやっている

行政として、ビジョン・方針を掲げながら
「一人ひとり」に実現するまで、継続・アクション！

同じような試行錯誤をしている仲間がいる！

- 同じ職場内に
- 同じ地域・市町村内に
- 同じ圏域・都道府県の中に
- 全国に！

つながろう！ 全国各地の仲間といっしょに！

CONNECTION

メーリングリスト参加メンバー募集中！

“コネクション”は、認知症地域支援に関わるみなさんの
情報交換・共有の場です。

コネクション
とは



認知症地域支援体制構築等推進事業、認知症総合推進事業等を実施したモデル地域の担当者、合同セミナーの参加者を中心に発足し、自主運営しているメーリングリストです。全国自治体の認知症関係部署、地域包括支援センターの方など、600人超の方が参加してざっくばらんな楽しい情報交換をおこなっています。

「見守りネットワークづくり、どうしたらいい?」「うちではこんなことやってますよ」「わたしのところはこうですよ」など、コネクションに投稿すると、全国各地から、ホットな情報が寄せられます。また「今度、模擬訓練やります。近隣の方、見に来ませんか?」といったお知らせ、各地で発行している定期情報誌の提供もあります。メンバー同士の気軽な相談窓口、楽しい情報交換の場、元気がでるつながり、それが「コネクション」です。

例えば、こんな情報が・・・（最新、7月18日の投稿）

コネクションのみなさま 鎌倉の稲田です。いつも情報提供ありがとうございます。鎌倉市今泉台でのオレンジカフェのご報告です。オレンジカフェ開催にあたりましては、このMLを通じてありがたい情報提供をいただきました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。さて、鎌倉初の認知症カフェは初回から大盛況でした。21名の参加者のうち、地元の人が20名でした。隣の市の若い介護職の青年が見学に来てくれました。認知症の人の参加は5名、家族は6名でした。専門職（ケアサロンさくら、地域包括、行政）4名、地域住民5名が参加して、とっぴにぎやかでした。オレンジカフェでは、認知症サポーターキャラバンのマスコット、ロボのストラップを作る仕事に女の人たちが群がっていました。やることのない男たちは、ジェンガというゲームで時間つぶしをしていました。3時間、特に決まったプログラムもなく、手を動かしながらのお喋りする人、地域や社会について語り合う人、認知症の人とも楽しく時を過ごしました。ロボ用のフェルトと糸など、鎌倉市より提供いただきました。感謝！

コネクションへの参加希望は、メールでどうぞ！

メール件名を「コネクション参加希望」とし、①都道府県／市町村名、②所属部署／法人名、③お名前、④連絡先（所在地住所・電話番号）、⑤メールアドレスを、下記宛て（大阪府岸和田市福祉政策課・庄司）にお知らせください。

shouji-akiyoshi@city.kishiwada.osaka.jp

多くのみなさんのご参加をお待ちしています。
地元の関係者にも「コネクション」をご紹介します。

チラシ参照

どうぞ、参加を！

職場や。地域の
人たちにも
伝えて下さい！